多面的・多角的に日本の歴史を捉えるさまざまな工夫

さまざまな視点から歴史を見ることができる「地域史」・「人物史」

(特設ページ 「歴史を探ろう」)

当時の社会を地域の視点から見ることで、日本の歴史を多面的に捉えられるようにしています。

本文で学んだことを具体例を 通じて深める「学習テーマ」

歴史を探る動機となる 「疑問」

本文で学んだことと地域を 結びつける「関連ページ」

関品作物 p.147 魔座美業 p.188 横浜港 p.176 自由民権運動 p.200~201



「絹の道」と日本の製糸業

1 生糸の生産・取り引きで栄えた桑都 八至子





プロ養蓄農家(左、1900年ごろ撮影)と→国八王子 ごろ撮影) 開港後に外国との生糸質易が始まったご 輸出用の生糸を運ぶルートになりました。このこと :→F]八王子からの鰡を運んだ雑道(右

外国人が見た幕末の八王子 饕篭と生糸の生産工程に興味のある人なら、八王子かその近くの農家を訪問する。 (『F.ペアト写真集1 幕末日本の風景と人び と』より、一部要約・抜粋]

● なぜ汽ごとは生糸の生産・取り引きで発展したのかな?

がお祀され、養養が整かな、「茶の香」(茶香)となるはれていました。 ました。さらに人王子はほかの生糸生産地境花で群馬県 や長野県、山梨県など)と立戸を結ぶ地点にありました。 そのため、江戸時代から生糸の取り引きが盛んで、多くの 生糸商人が招渡しており、特に八王子の強がの商人は有名

歴史 生糸で財を成した 横浜商人 ハ王子の生糸は横浜港から外国 ・ 株田でれ、横浜の商人は生光製 易でたちな富を着てました。なか でも脱巻がある。 節は、生糸のを残りが高さ、 節は、生糸のを乗って手がけ、後 に国際が乗場などを所有し、生糸 類感で枕を築いた製商として有名 です。





**ガくりに適さない土地だった八王子では、古くから奏 増え、「絹の道」は生糸を積んだ荷車でにぎわいました。生 が栽培され、養養が盛んで、「桑の器」(桑部)とよばれてい 糸竜人や養蚕農家は利益を得るだけでなく、散采の文化や

現在、養養農家は激減したものの、八王子では組織物を した。開国前にもかかわらず、鎌水には、西洋風の建物 主とした伝統プランドが受け継がれており、「八王子ネク つくられていました。 タイ」などが有名です。また、「絹の道」の一部は文化庁選 横浜の開港によって生糸の輸出が始まると、各地で養蚕 定「歴史の道 百蓬」に指定され、現在でも当時のおもかげ プームが起こりました。八王子の生糸の生産・取り引きも を残す街道を歩くことができます。

思想に触れる機会も得ました。やがて鉄道が開通すると、

「絹の道」と共に栄えていた商人は没落しますが、生糸の生

↑□日本帝生糸の輸出量の推移

个写鉄道と生系の輸出 葡萄製糸場の生糸は、 鉄道が敷かれる前は標準まで船で運ばれていま した。1884年に鉄道が高端まで輸通してから は輸出量が高端しました。

7 日本の製糸業の発展



・生業は、関国してから日本の順要な輸出品となり、特に八王 子が取り引きで栄えたそうだよ。なぜ、八王子で盛んになった のかな。また、日本の製糸業はどのように発展したのかな。

2 日本の製糸業はどのように発展したのかな? 業末の貿易開始以来、生糸は日本の主要な輸出品でした。 管営の奮闘製糸場などを換範として、1870年代の後半に

日日の国際政権が企業を終めること、1575年に必要する は群馬・長野・山梨県を中心に、水力や蒸気機関を利用した機械で生産する製糸場が吹々に設立されました。1882 (開治15)年に日本銀行が設立されると、生産機関を拡大 するために必要な資金が供給されるようになり、製糸業界 も活性化しました。また、農家にとって、原料となる講の 供給は重要な現金収入になりました。

RSLA 日漕戦争前後の時期には、民間の鉄道会社の設立ブームも 日本を規起させる絵が描かれたラベルが集かれていました。

起こりました。日本では、産業革命が始まる以前から鉄道が 開業していましたが、横浜への生糸の軸送のように、貨物軸 送による利益を目指した鉄道建設が相欠ぎ、これらが各地 の産業の機械化を促していくという相乗効果がありました。 機械による生糸の生産は、作業の効率が上がって生産量が 増えるだけでなく、製品の品質を飛躍的に向上させ、国際競 参力も高まりました。日本の生糸や組織物の輸出先は主に関 課題は重要な課金収入になりました。 無終業や訪姻業など、軽工業中心の産業革命が推選した SLK(生糸)」などの表示とともに、生産地名や、大相撲など

代日本の産業のいしずえを築いた実業家

↑p.216-217

「疑問」にわかりやすく答える「解説文」

掲載ページ一覧 (全11テーマ)

ページ	タイトル
p.82-83	東アジアに開かれた窓口 博多
p.132-133	琉球とアイヌ民族の暮らし
p.142-143	昆布ロードと北前船
p.154-155	世界有数の百万都市 江戸
p.192-193	世界に開かれた港横浜
p.198-199	移住と開拓が進む北海道

ページ	タイトル
p.216-217	「絹の道」と日本の製糸業
p.246-247	発展する産業都市 大阪・神戸
p.260-261	長野県から見る満州移民
p.268-269	戦場となった沖縄
p.286-287	日本の領土画定と近隣諸国
	<u> </u>

コラム「地域史」

本文と関連付けながら、地域から日本の歴史を 捉え直しています。



益地域史 鉄砲づくりを支えた堺と国友 □ 地域史 財政改革に成功した米沢藩 かつて120芳岩もの岩鶯があった<u>学彩</u> は、岩巖が藩主となったときには15万石 なっていましたが、家臣を譲らさなかったため、常に財政難にありました。 そこで治療は、大規模な開墾を行って美 で発などの協議とか(+p.147)の栽培を奨励 や潜などの商品体制(ー)」(47)の規則を実施 はました。さらに、難効業を導入して海内 の産業を僅入にし、江戸で商品を発展した。こうした産業 の発達や機関により、通の財政配送側し、 議議の定等の失敗けたなりました。 また側さんに優え、米の野器や、食用と して酸の機能を研究に乗励しました。

→<mark>4</mark>上杉治憲(鷹山) |1751〜1822||「なせば |或る なさねば成らぬ何 事も 成らぬは人のなさ 葉を残しています。

↑p.112

↑p.148

掲載ページ一覧 (全16テーマ)

ページ	テーマ
p.33	上野三碑にみる渡来人の影響
p.55	蝦夷と東北の支配
p.74	仏教の隆盛を伝える「鎌倉大仏」
p.80	北と南を襲ったもう二つの蒙古襲来
p.100	各地に広がった文化
p.112	鉄砲づくりを支えた堺と国友
p.113	世界の銀を支えた石見銀山
p.125	鳥取藩の参勤交代

ページ	テーマ
p.140	日光東照宮と街道の発達
p.148	財政改革に成功した米沢藩
p.180	函館と那覇のペリー来航
p.189	士族の救済事業となった安積開拓
p.201	多摩地方の自由民権運動
p.215	近代化を支えた石炭と八幡製鉄所
p.215	京都の近代産業育成と伝統保護 NEW
p.287	小笠原諸島の返還

「人物コラム」 「人物さくいん」

為政者だけでなく、地域で活躍した人など、**さまざまな立場の人々**を「人物コラム」で紹介しています。 巻末には、おもな**人物のさくいん**を掲載しています。(全311名)

天川東三郎 1864~1934



ヌの民族活動家です。1899年、礼幌にあった陸軍第七節団の旭川への移転決定に伴い、旭川の近文にあったアイヌの土地を取り上 げ、天塩に強制移住させる計画が明らかに なりました。日本語のできる石狩在住の天 川は近文のアイヌによばれて裁判所に訴え、 歩<まば^{の3} 上京して大隈重信(→p.201)などと会い、協 力を求めました。北海道庁長官は移転を中 止し、問題はいったん解決しましたが、そ の後もアイヌの土地所有問題は繰り返され、

-p.197

1920~92

日本初のプロ女性 漫画家

らくろ』で有名な田河水 窓に弟子入りしました。

15歳で漫画家デビューし、19歳で新聞連載をも つなど、人気漫画家になりました。漫画『サザエ さん』は1946年から約28年間続きました。テレ ビでアニメーション化され、今も多くの人々に 愛されています。1992年には国民栄誉賞を受賞 **个18** サザエさん しました。現在、漫画家で唯一の受賞者です。 作は4コマ漫画です。



「人物コラム」一覧(全49名)

*太字:新しく追加された人物

章(時代)	人物
第2章(古代)	孔子、シャカ、イエス、ムハンマド、鑑真、菅原道真、 最澄、空海
第3章(中世)	平将門、源義経、足利義満、雪舟
第4章(近世)	千利休、天草四郎、徳川綱吉、高田屋嘉兵衛、 松尾芭蕉、 伊能忠敬
第5章(近代前)	ワシントン、ナポレオン、マルクス、ビスマルク、 高杉晋作、大浦慶、吉田松陰、福沢諭吉、江藤新平、 西郷隆盛、大久保利通、 天川恵三郎 、島義勇、 伊藤博文、渋沢栄一、正岡子規
第6章(近代後)	ウィルソン、ガンディー、原敬、与謝野晶子、 平塚らいてう、山川菊栄、宮沢賢治、山口淑子、 蔣介石、毛沢東、斎藤隆夫
第7章(現代)	吉田茂、湯川秀樹、 長谷川町子、中村哲

↑p.297

23 24

多面的・多角的に日本の歴史を捉えるさまざまな工夫

中央の歴史だけでなく地方の歴史も重視した「琉球とアイヌ民族」

琉球とアイヌ民族の歴史を古代から現代まで一貫して取り上げています。

豊富な資料や因果関係のわかる本文で丁寧に解説しているため、 それぞれの文化や周辺地域との関わりについて深く理解できます。

【琉球とアイヌ民族に関する地図

琉球・アイヌ民族の歴史を地図で確認できるようにしています。



の3つの勢力が並び立ち、15世紀には中山の王である尚氏によっ て統一され、首里(現 那覇市)を都とした琉球王国が成立しました。 奄美大島(鹿児島県)から与那国島に及ぶ地域がその領域でした。 琉球は14世紀末に前との朝貢貿易を始め、さらに日本・朝鮮・ 東南アジアの国々とも盛んに交易を行いました。琉球は、琉球産の 硫黄や日本の刀・屛風、東南アジア産の珍しい香辛料や蘇木(染料)

などを明にもっていき、その返礼として得た絹織物・陶磁器などを 猪国に転売しました。中国・東南アジアや日本の55²(鹿児島県)・ ¹⁰ 博多(福岡県)・堺(大阪府)の商人をはじめとした人たちも、アジア 各地の交易品の集まる琉球の那覇港へやって来ました。

こうした中継貿易によって琉球王国は繁栄し、独自の文化を築き ました。しかし、16世紀半ばになると、明の商人が国による通交 と貿易の規制を破って東南アジアや日本へ盛んに進出するようにな 15



け、16世紀後半になると、琉球船の活動は衰えていきました。

アイヌ民族と 日本列島の北端では、狩りや漁を中心とした生 交易 活が長く締いており 13世紀までによって ラジュ 活が長く続いており、13世紀までにはアイヌ文化 が成立しました。北海道のアイヌ民族は、雑茶や予島列島に進出し、 アムール川流域で活発に交易・交流していました。

また、津軽半島(青森県)の十三湊は、アイヌ民族と和人(本州の 人々)の交易地となり、北の日本海交通の中心でした。14世紀ごろ には、領宝の安藤(安東)氏の下で繁栄し、北方産の鮭や崑希・毛皮 10 などが日本海を通って京都などへ運ばれていきました。

やがて和人は、北海道の南部へ進出し、麓とよばれる殺拠地をつ くり、アイヌ民族と交易しました。15世紀半ば、和人の進出に圧 道されたアイヌ民族は、コシャマインを指導者として、和人と衝突 を起こしました。この衝突から80年ほど争乱が続くなかで、和人 の居住地は限定されていきました。その後しばらくは、アイヌ民族 と和人の交易は安定したものとなりました。



琉球王国やアイヌ民族は、本州 の人々とどのような関係をもっ たのか、説明しよう。

」節の問いをまとめよう ⇒ p.102 89

p.88-89

【 琉球とアイヌ民族が繁栄した背景がわかる本文

繁栄した背景には、琉球王国は日本・中国・東南アジアを相手に中継貿易が、 アイヌ民族は和人を相手に北方産の鮭や昆布・毛皮などの交易があったことが わかります。

琉球とアイヌ民族の歴史 掲載ページ一覧

時代	ページ	タイトル	種類
古代	p.31	北海道・南西諸島の歩み	年表
中世	p.80	北と南を襲った もう二つの蒙古襲来	コラム 地域史
中世	p.88-89	琉球とアイヌ民族が つなぐ交易	見開き全体
近世	p.130-131	琉球王国と アイヌ民族への支配	見開き全体
近世	p.132-133	琉球とアイヌ民族の 暮らし	特設 歴史を探ろう
近代 前半	p.180	函館と那覇の ペリー来航	コラム 地域史

時代	ページ	タイトル	種類
近代 前半	p.196-197	沖縄・北海道と 近代化の波	見開き全体
近代 前半	p.198-199	移住と開拓が進む 北海道	特設 歴史を探ろう
近代 後半	p.245	見直される伝承や文化	本文(一部)
近代 後半	p.268-269	戦場となった沖縄	特設 歴史を探ろう
現代	p.286-287	日本の領土画定と 近隣諸国	特設 歴史を探ろう
現代	p.289	現在に残る沖縄の 基地問題	コラム 未来に向けて
現代	p.301	日本における先住民族	コラム 未来に向けて





2 琉球からの謝恩使 琉球からの使節は、農

値と合わせると、汽声時代を通して計18

130 小学校。地理。公民。他教科との関連

p.130-131

徳川家康は、朝鮮出兵で衝絶した朝との関係を改善 ま口 するため、琉球王国(沖縄県)に明との神介役を期待 しました。薩摩藩(鹿児島県)が交渉にあたりましたが、琉球が仲介 を断ったことを理由に1609年に出兵し、薩摩藩は琉球王国を支記 しました。そして、検地を行って音好から年貢米や布を取り立てる 5 など、厳しく監督しました。

従来より琉球は、明に朝貢し、明の文化や産物、海外情報を積極 的に取り入れていました。それらは幕府や薩摩藩にとっても貴重 だったため、幕府や薩摩藩の管理の下で、明や清への朝貢を続ける ことが認められました。琉球から中国へは、薩摩藩を通して入手し 10 た、蝦夷地(北海道)や日本各地の崑布・ふかひれ・なまこなどの海 産物が輸出され、中国から琉球へは、絹織物・医薬品・茶・陶磁器 が輸入されました。また、琉球では特産の黒砂糖や漢方薬・染料に 使われるウコンが盛んにつくられ、琉球はそれらを薩摩藩の商人を 通じて大阪で売り、その利益を中国との貿易資金にしました。 15

琉球からは、将軍が代わるごとに慶賀使とよばれる就任祝いの使 節と、琉球王が代わるごとに謝恩使とよばれる感謝を崇す使節が介 戸に派遣されました。薩摩藩は、琉球の使節が着る中国風の衣装を





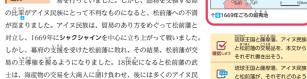
より強調して行准させ、墓府と薩摩藩の権威が遠く琉球主で及んで いることを国内の人々に印象づけました。

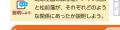
蝦夷地の多くの土地にはアイヌ民族が暮らし、南 西部の渡島半島には松箭藩の和人の住む和人地があ s りました。アイヌ民族は、漁や养りを行ってにしん・鮭などの海産 物や毛皮などを渡島半島や東北地方まで運び、和人と、米・木綿・ 鉄製品などと交換していました。また、彼らは千島列島・樺太・中 国東北部の人々とも交易していました。

松前藩は、耕地が乏しく冷涼な気候で米がとれなかったことから、 10 年貢米による収入の代わりにアイヌ民族と交易し、その利益を独占 する権利を幕府から与えられました。

交易をめぐる 松前藩の武士は、アイヌ民族の住む地へ行き交 衝突 易を行っていました。しかし、品物を交換する際 の比率がアイヌ民族にとって不利なものになると、松前藩への不満 が高まりました。アイヌ民族は、貿易のあり方をめぐって松前藩と 対立し、1669年にシャクシャインを中心に立ち上がって戦いました。 しかし、幕府の支援を受けた松前藩に敗れ、その結果、松前藩が交 易の主導権を握るようになりました。18世紀になると松前藩の武

20 族が漁場に働き手として駆り出されることになりました。





ていませんが、この蝦夷に由来して、 は和人から蝦夷地とよばれていまし

(展方的) がサマンパ (展方的) かります。 の日記 大平洋 の日記 大平洋 の日記 大平洋 の日記 大平洋 の日記 大平洋

節の問いをまとめよう ⇒ p.158 131

知識定着を図るための一助として、用語の「解説」を 全47か所に設置しています。

解説

25 26

多面的・多角的に日本の歴史を捉えるさまざまな工夫

政治史だけでなく伝統文化への関心を高める「文化史」

文化史のページでは、各時代の代表的な文化を大きな図版で紹介し、

伝統文化への関心を高められるようにしています。

本文やタイトルから**文化のおもな担い手や特色**がわかるようにすることで、

その時代の文化の特色を捉えやすくしています。

↑1伊勢参り 原民の自由な旅行は原則禁止されていましたが、寺社への参詣という名目で各地 をめぐる旅をすることができました。なかでも伊勢神宮は一生に一度は行きたい庶民の憧れでし た。この絵には、60年に一度しかない、とてもご利益のある「おかげ年」の様子が描かれていて、 si 『記でる人でとてもにぎわっていることがわかります。 (歌川(安藤)広重作 『伊勢神宮 宮川の渡し』 神奈



江戸っ子を夢中に させた娯楽と浮世絵



►2相撲の取り組み 相撲は、初め朝廷の年中行事でしたが、 江戸時代になると、大名が支援するお抱えの力士たちを競わ せるようになりました。その後、興行が定期的に開催されたことで、庶民の娯楽として人気を得ました。 相撲を職業とする人々も現れ、信濃 (長野県)出身で松江藩(島根県)お抱えの 雷電など、人気力士も誕生しました。[歌川(安藤)広重作「東都 面国回向院境内相撲の図门

えだの人々の盛り場となった火除地 江戸は木造家屋が密集し、火災が発生すると被害もすぐに拡大しまし た。幕府は火災の拡大を防ぐため、火除地とよばれる、建物を設けない 広場を町のあちこちに置きました。特に橋は避難ルートとして重要な場 所なので、橋のたもとには大きな広場ができました。広場には、仮設の 小屋が建てられて興行などが開催され、飲食や物の売買ができる繁華街 になりました。 → 3 両国橋で行われた花火大会[葛飾北斎作『江都両国橋夕涼花火之図』 神奈川



文化史 掲載ページ一覧(全10か所)

ページ	タイトル・
p.44-49	大陸の影響を受けた天平文化
p.56-59	唐風から日本風へ変わる文化(国風文化)
p.72-75	武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化
p.98-101	庶民に広がる室町文化
p.120-123	戦国大名と豪商が担った桃山文化
p.144-145	上方で栄えた町人の元禄文化
p.150-153	江戸の庶民が担った化政文化
p.220-223	欧米の影響を受けた近代文化
p.242-245	近代都市に現れた大衆文化
p.294-297	大衆化・多様化する戦後の文化

(文化の特色がわかるタイトル)

タイトルから、文化のおもな担い手や特色が わかるように工夫しています。

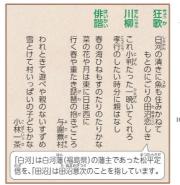
【文化が生まれた背景がわかる本文

化政文化が生まれた背景には、社会の安定と 経済の発達により豊かになった庶民の存在が あったことがわかります。



江戸の庶民が 担った化政文化 5節の問い なぜ幕府はさまざまな改革を行った

■ 帰村は、資幣に含まれる金・銀の軍を減ら すことで、貨幣の量を増やしていました。



江戸時代後半には、どのような特色をもった文化が展開したのだ

出沼意次による、経済の中心を江戸に移す政策に

のころ、貨幣の設鋳によって多くのお金が回り、大飢きんも起こら なかったため、裕福な町人だけではなく庶民も、手にしたお金で娯 築を楽しむようになりました。19世紀初めの $\hat{\Sigma}$ 花・ $\hat{\Sigma}$ 数期を中心 に花開いた、江戸の庶民による文化を**化政文化**といいます。

歌舞伎はさらに人気を集め、落語を楽しむ寄席や相撲が庶民にも 広く親しまれました。また、幕府の政治や庶民の生活を風刺してよ む川柳や狂歌が流行し、俳諧では情景を巧みに表現したち謝蕪村や 農民の感情をくみとった小林一茶らが評判を得ました。

印刷技術の発達を背景に、浮世絵のなかに顕絵とよばれる多色刷 りの版画が登場し、歌舞伎の人気役者を描いた東洲斎写楽や美人画 を描いた喜多川歌麿らが活躍しました。町人だけでなく、生活にゆ

↑p.150-151